展開図の記述について 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈Ⅲ〉

〈NO,1〉　全体のねらいに対して、子どもの今までの実態、活動内容、全体の計画を踏まえて、今日のねらいを端的に記述する。したがって、ここの記述はNO,4の中心的活動となる。

〈NO,2〉　保育案に記入された「子ども達の遊び」をそのまま記入する。ただし、クッキング等は例外となる。

〈NO,3〉　＊NO,2に対し、今日の子ども達の遊びの全体的な動きを予想し、それに対する留意事項を記述する。

　　　　　＊２歳児までは、養護面（基本的事項）で関連されるものについて、これを記述する。

　　　　　＊遊びに入れないと予想される子どもへの配慮等も箇条書きにし、簡潔にまとめる。

〈NO,4〉　NO,2を細分化し、予想される遊びの場面をそれぞれ端的に記述する。なお、枠は３～４つ程度としたい。

〈NO,5〉　NO,4の活動をさらに細分化し、２～３の遊びを選定し、それに番号（①②･･･）を入れる。以下NO,6の説明を参照。

〈NO,6〉　NO,5の番号を入れ、それぞれの関わりについて記述する。なお、特別な配慮を必要する子どもについては、遊びに参加できる場合のみ点線四角で囲み、記述する。また混合の場合で、特定の年齢のみの留意事項となる場合、文章の末尾にその年齢を（　）で記入する。

〈NO,7〉　片付けをする場合、３歳児以上にはそのままの表記でもよいが、２歳までの乳幼児の場合は、子どもの発達に見合った表記が望ましい。

例：「ないないしよう」など

〈NO,8〉　「片付け」について、幼児の気持ちを尊重しながら、どのようにして片付けの意欲を持たせるか、保育者の手立てについて記述する。

〈NO,9〉　NO,1（今日のねらい）に対しての評価の視点について、１～３項目を記述する。なお、この記述の末尾は「○○ができたか。」という表記になり、保育者、子どものそれぞれの立場から記述する。